

✿ 西トップ遺跡の解体修理開始

奈良文化財研究所は1993年より長きにわたってカンボジア・アンコール遺跡群の調査研究に携わってきました。2002年からは西トップ遺跡と呼ばれる石造寺院を継続的に調査してきましたが、研究を進めるうちに、この遺跡が崩壊の危機に瀕していることがわかってきました。おりしも2008年には建物の一部が崩落。その危機は目のあたりのものとなりました。

ひとまず応急処置としてスチール製の足場によって建物を補強したものの、根本的に修理するにはいったん建物の石材をクレーンで解体し、基礎を強化したうえで再構築する必要があることがわかりました。しかし、これはあくまでも文化財の修理です。コンクリートなどの現代的な素材を使用するのは極力ひかえ、もとあった石材を再利用し、なるべく建造当時の技術を用いて再構築する必要があります。そのためには、修理前の遺跡の現状を詳細に記録し、ふさわしい解体修理の方法を検討せねばなりません。それには3年あまりの時間を要しました。

そうした学術的な記録と検討を経て、昨年末に修理計画書をカンボジア政府（APSARA機構）とユネスコの委員会（ICC-Angkor）に提出。その承認を経て、いよいよ今年3月に解体修理工事が着工しました。起工式では難波企画調整部長（所長代理）とAPSARA機構のマオ・ロア局長がスピーチをおこない、両国の機関が手をたずさえてこの貴重な文化遺産の復興をおこなっていくことが表明されました。

今日も現地では奈文研の現地駐在員・現地スタッフおよび石工・作業員など10数名によるチームで工事が進められています。（企画調整部 石村 智）



クレーンによる崩れかかった建物の解体修理